

JRC2011 合同特別講演 2

「顔学は究極の画像診断」

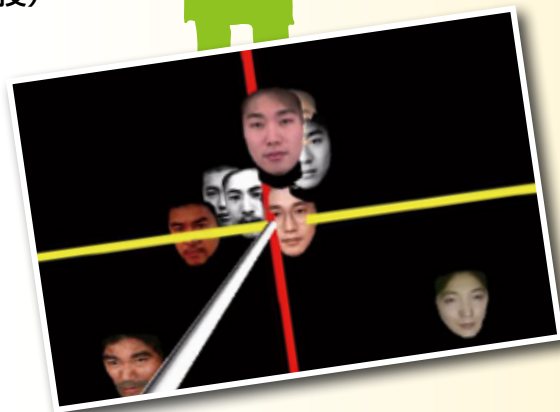
演者：原島博氏 (東京大学名誉教授)

司会：古井 滋 (帝京大学医学部放射線医学講座 教授)

会場：パシフィコ横浜 301

2011年4月9日(土)

13:00 ~ 13:50



会員へのメッセージ

突然、不躰な質問をお許し下さい。あなたは自分の顔をどう思っていますか。どうせ親からもらった顔だから仕方がないと、あきらめていませんか。私たちは、誰もが顔一つ持っています。そしてその顔に一喜一憂します。朝、鏡の中にいる顔が機嫌がよいと、その日一日が楽しくなります。顔とは、いったい何でしょうか。

このような顔についての体系的な学問は、いままでありませんでした。それは顔が、あまりにも身近な存在であるからです。また、これまでの科学が苦手としてきた感性的な対象であるからです。さらには、人類学、心理学、さらには哲学など、さまざまな分野の研究者の協力を必要とする「学際科学」であるからです。

この講演では、コンピュータ画像処理によって合成された多数の顔写真を紹介しながら、人の顔の秘密を探る研究を紹介します。また、1995年の日本顔学会の誕生をきっかけとして、顔画像処理が学際的な「顔学」へと発展してきた流れを紹介し、「顔学」の今後を展望します。

演者プロフィール

1945年終戦の年に東京で生まれる。1964年18歳のときに大学に入学し、2009年3月に、45年ぶりに定年という形で東京大学を卒業した。この間、工学部に属し、ヒューマンコミュニケーション工学、つまり「人と人とのコミュニケーションを技術の立場からサポートする」ことを専門として研究が続けてきた。また、人間の顔にも興味を持ち、1995年に「日本顔学会」を発起人代表として設立、「顔学」の構築と体系化に尽力してきた。科学と文化・芸術の融合にも関心をもち、東京大学のコンテンツ創造に関する教育プログラム代表、文化庁メディア芸術祭アート部門審査員、グッドデザイン賞(Gマーク)審査員などもつとめた。

現在、東京大学名誉教授として、電波監理審議会会長、日本顔学会会長などをつとめている。女子美術大学と明治大学の客員教授でもある。

